

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

「私達の今」がある理由

大木町立大木中学校

三年 松 永 和

一年間で一人あたりの中学生に使われる税金は、約九十七万九千円。このことを知っている中学生は、どれくらいいるだろうか。実際に、百万円近くの税金で一年間を過ごすことができていると実感して税金のことをきちんと理解している中学生はどれくらいいるだろうか。きっと、ほとんどいないだろう。私も実際、そんなにたくさんのお金のおかげで今の生活を送れているとは、知らなかった。つい最近まで消費税が八パーセントから十パーセントに上がることに対しても、「どうしてこんなに払わなければならないのだろう。」とただ嫌な気持ちでしかなかった。

こんな私が税に興味を持つきっかけとなったのは、病院でのある出来事であった。診察を終え、看護師さんから呼ばれて受付へ行ったとき、

「大木町は医療費、無料なんです。」

という言葉を医療書を返してくださいました看護師さんからかけられた。あとになって知ったことだが、私が住んでいる大木町では、今年の七月から、中学生までの子どもの医療費が無料になったそうだ。これは、子育て支援を充実させるための

大木町独自の取り組みである。こんなふうに町のみんなのことを思って税金の使い道を考えてくださっている大木町をすごいと思った。そして、同時に感謝しなければならぬと気づいた。今まで消費税などを払うことに対して嫌だという気持ちを抱いていただけで、私達が払った税金がどんなふうに使われているのか、社会でどんな役割を果たしているのかわかなくて考えたこともなかった。私は、税金のことをきちんと理解できていなかったのだと思う。だから、税金について知りたいと思つて、税金の使い道を調べた。そもそも、税金は日本社会全体を支えるお金であり、消防車や救急車、パトカーの出動、ごみの収集、医療費、教育費の一部負担などでも使われていることがわかった。そして、私達が日々過ごしている学校の校舎も税金によって建てられている。他にも、教室の机や椅子、黒板、体育館、プールなど学校の様々なものは税金によってつくられている。つまり、私達の今を支えているのは税金だということだ。

だから、私達は、そのことを心の底から深く感じながら過ごしていくべきだと思う。私達の今を支えるために何人もの人が税金を払ってくださいている。その重みを理解し、今を大切にしていきたいと思います。

これから先、大人に近づいていくにつれ、私達も税金を払う立場になる。そのときは、この税金が子どもたちの今を支えているのだと思ひながら、税金を払っていききたい。そして、まだ何も知らない子どもたちに、こう伝えたい。

「あなたたちの今を支えているのは、税金なんだよ。だから、税金は大切なんだよ。」